



## つながり事業成果報告

## まちづくりリーダー育成事業

### ファシリテーター養成講座

#### ■ 事業の目的 ■

これからの地域活動は、住民の地域に対する思いを緩やかに醸成し、地域全体で共有していくことで、住民の主体性を引き出すことが重要となってくる。住民を「どう動かすか」ではなく、「どう巻き込むか」である。地域全体の主体性は、何度も顔を合わせ、話し合う中で信頼関係と共に生まれていくとも言える。

住民の共感と協働を得て、初めて地域が動き出すと考えると、その状況を作り出す役割が地域コーディネーターであり、本事業「つながり」をキーワードに、「地域コーディネーターの役割ができる人」を「まちづくりリーダー」と定義し養成する。

#### ■ 養成する能力 ■

多様な意見を持つメンバーのチーム力を最大限に引き出す、コミュニケーション技術としてのファシリテーション能力

#### ■ 受講対象者 ■

- ①長崎市にお住まいの方、又は、通学、通勤している方
- ②18歳(高校生を除く)～49歳までのまちづくり活動に関わっている方、また、まちづくり活動に興味がある方
- ③2年間通して受講できる方
- ④受講終了後、まちづくりリーダーとして長崎市のまちづくりにご協力いただける方

#### ■ 募集人員 ■

30人



(講師：堀公俊氏)

#### ■ 講師略歴 ■

堀公俊事務所代表、組織コンサルタント、日本ファシリテーション協会フェロー。

研究会や講演活動を通じてファシリテーションの普及・啓発に努めている。元関西大学商学部非常勤講師、元法政大学キャリアデザイン学部兼任講師。

#### ◆ 主な著書

『ファシリテーション入門』『ワークショップ入門』『ビジネス・フレームワーク』(日経文庫)『問題解決ファシリテーター』『組織変革ファシリテーター』(東洋経済新報社)など多数

#### ◆ 経歴

- 1960年 神戸生まれ
- 1984年 大阪大学大学院工学研究科修了。大手精密機器メーカーにて商品開発や経営企画に従事。
- 1995年 組織改革、企業合併、教育研修、コミュニティ、NPOなど多彩な分野でファシリテーション活動を展開。
- 2003年 有志とともに日本ファシリテーション協会を設立し、代表者に就任。

## ■ 研修の狙い ■

- ・ファシリテーションスキルを体系的に理解し、スキルアップに向けてのポイントをつかむ。
- ・ファシリテーションのスキルを一つずつ体感し、スキルアップへの気づきの場とする。

## ■ 研修の特徴 ■

- ・演習(個人、ペア、グループ)を中心にした参加型の研修。
- ・相互フィードバックを入念に行い、自己研鑽に向けての気づきの場とする。

## ■ 研修のカリキュラム ■

### 第1回 平成27年6月7日(日)

#### 場のデザインのスキル ～会議の段取り術

- ・まちづくりとファシリテーション
- ・チーム(場)づくりのポイント
- ・会議のアジェンダ作りのコツ

技法：議論、場の設定、ゴールとアジェンダ



### 第2回 平成27年7月5日(日)

#### 対人関係のスキル ～意見の引き出し術(1)

- ・意見を引き出し受け止める
- ・感情や場の動きを観る
- ・柔らかく意見を伝える

技法：傾聴と応答、観察、フィードバック



### 第3回 平成27年8月2日(日)

#### 対人関係のスキル ～意見の引き出し術(2)

- ・参加者が持つ資源を引き出す
- ・効果的なブレインストーミング
- ・アイデアを引き出す各種技法

技法：SWOT、ブレインストーミング



**第4回 平成27年9月6日(日)**

**構造化のスキル ～議論の整理術(1)**

- ・主張を明確にする
- ・意見の道筋を整理する、
- ・議論を整理する技法

技法：要約、ロジカルシンキング、  
親和図法



**第6回 平成27年12月6日(日)**

**合意形成のスキル ～会議のまとめ術(1)**

- ・意志決定手法を学ぶ
- ・対決解消の基本ステップ
- ・柔軟に対立解消の案を考える

技法：意志決定技法、コンフリクトマネジメント、三つのアプローチ



**第5回 平成27年11月8日(日)**

**構造化のスキル ～議論の整理術(2)**

- ・議論を描いて整理する
- ・図解を活用して整理する
- ・フレームワークを活用する

技法：ファシリテーショングラフィック、  
構造化技法、マトリクス型



**第7回 平成28年1月31日(日)**

**合意形成のスキル ～会議のまとめ術(2)**

- ・対立が創造を生み出す
- ・困難な対立に立ち向かう
- ・問題児への対処法

技法：クロスロード、ロールプレイング、  
リフレーミング



## 第8回 平成28年3月6日(日)

### 総合演習／クロージング ～実践に向けて

- ・最新の対話技法を学ぶ
- ・臨機応変に場に対応する
- ・経験を学習につなげる

技法：ワールドカフェ、ワークショップ、ダイアログ



最後に、堀先生からのメッセージ

ギフトを返そう！

ギフト(才能、贈り物)を回していくと”いいまち”になる。ギフトを自分だけのものにしない。

### ■ 受講生の感想 ■

テーマ：

『今回受講して得たことを、今後、どんな場面で、どんな風に活かしたいと思うか』

私は、今回受講して得たことを自身の仕事であるまちづくりの支援に活かすことは勿論、職場内での会議でも積極的に活かしていきたいと思います。また、それぞれの場面では決して安易な妥協をせず、様々な方々の思いや考えを引き出し、何をどのように議論すれば問題が解決するのかということを意識して、積極的にファシリテーターの役割を買って出たいと思います。(宮本友和)

私の仕事は、地域活動をされている方たちがまちづくりについて話し合い、これからの地域の目指す姿(ビジョン)を作り、実行していく、そういうまちづくりの担い手を増やし、活動する団体を増やすことです。

地域の方々と未来を語る場で納得できる対話を行っていきたいと思います。(前田裕子)

ファシリテーター養成講座で得たものについては、意見や論点の整理の仕方などの思考のテクニックを、仕事などですでに活用しています。今後も、マンション管理組合や自治会での話し合いなど、身近なところから学んだ知識や経験を活かしていこうと思います。

(篠崎義行)

『今回受講して得たことを、今後、どんな  
場面で、どんな風に活かしたいと思うか』  
まず自分自身が多様性を受け入れること。

そもそもの価値観の違いは誰にでもあって、  
それをいかに調和させていくか、どこで折り  
合いをつけるかということを意識するよう  
になりました。考え方や物事への視点に「柔軟  
さ」が大切だと思います。

今現在関わっている市民活動や仕事の中  
でも、各人の意見や考えをどれか一つだけ  
ではなく、うまくまとめていけるように  
なりたいです。(毛利真紀)

今回、講座を受講して得たことは、他  
者の考えを知ることの重要性に気付いた  
ことです。公私ともに、大小問わず、  
問題がたくさん起こります。

本講座で、問題を解決するためのた  
くさんのコツやポイントを学びましたが、  
それも全て他者の考えを引き出す技  
術に他なりません。

今後は、仕事の接遇の場面などで、  
利用者のニーズを引き出すため、  
講座で学んだことを活かしてい  
きたいです。(小川さやか)

私は今、長崎大学でまちづくりにつ  
いて勉強、研究しています。

今回受講した講座では、そのまち  
づくりにおいてとても重要な「聞く  
力」を学びました。

そして、全員で全員が納得する  
答えを創り出したときの喜びを  
味わうことができました。

今後は大学院に進学し、様々な  
WSに参加しようと思います。  
その時に全員が心残りのない  
話し合いができるよう、学んだ  
ことを活かして進行していこう  
と思います。

(藤浪ひかる)

今回の講座で学ばせていただいた  
ことについては、「町づくり」だけ  
ではなく、仕事上の会議(意思  
決定、反論、対立等)や相談  
業務、プライベートを含む  
コミュニケーションにも積極  
的に活用していきたいと思  
います。

(田中信)

地域の会議に出席する機会が  
ありますが、何がどのように  
決まったのかが、わかりにく  
いことがありました。

私自身は会議を進行する立  
場ではないのですが、まずは、  
会議の内容や結果の見える化  
や共有化のために、会議  
の中でホワイトボードを使  
ってみることから始めたい  
と思います。

(篠崎桂子)

講座を通して、自分の良い  
所・良くない所に気付か  
されました。また、私は  
目標が曖昧なまま話を進  
めていく傾向があること  
を知り、自分自身を知る  
機会にも繋がりました。

今後は会議の場面だけで  
なく、職場やプライベート  
でも、考え込むだけでなく、  
“行動を起こす”という  
ことも意識して、物事を  
やり遂げられるように  
なりたいと思っています。

(飯山由佳)

今年度、こども会の役員  
となりました。毎年、加  
入世帯が減少している  
こども会を、今後どの  
ように維持・運営して  
いくか皆さんの意見を  
聞く立場となりました  
が、ファシリテーション  
の技術は、仕事に限ら  
ずこのような身近な  
ことにも生かせると思  
います。学年にとら  
われず広く意見が聞  
ければと思います。

(諸谷ふみ)

参加者とコミュニケーションをとり、アイデアを引き出しながら意見を解りやすくまとめていく、自分の考えも柔軟にする。

まずはまちづくりリーダーをさせて頂き、職場等会議の中でファシリテーターをできればと思っています。(藤田聡美)

私は今、地域の方たちが「自分たちのまちをよくしよう」という思いを実行しやすいしくみを考える仕事に携わっています。

地域が必要とする支援を提供するためには、地域の方たちとの「対話の場」が不可欠だと感じています。

対話を基盤とした取組みから本質に係るアイデアが生まれてくると思うので、地域に寄り添い、意見を引き出し、弦きを集め、紡いでいくことで、それぞれの地域に合った支援に繋がるように関わっていきたいです。

(卜部淳史)

ファシリテーター養成講座に参加して得たことは「対話を促進させる技術」です。仕事でも家庭でも対立はなにかしら起こります。

その解消のために講座で学んだ「意見を聴くこと」「問題を整理する手順」などを活かして対話を促進することをやっていけたらと思います。(山口由里子)

1年間の講座を通し、会議の会場づくりや言葉の選び方、タイミングなど沢山のスキルを楽しく学ぶことができました。仕事の中で地域の方とグループワークを行う機会もあるので、学んだことを怖がらずどんどん使っていきたいと思っています。(小川実咲)

この講座に参加して改めて、対話の重要性、意義、対人への拝領等、人格形成でも大変意味深い経験が出来ました。

対話の重要性としては、人の話を聴きながら、自身で考えて表現化を図り対話を拡散しながら議題を遂行する等、高いスキルが必要とされる行動を学べました。並行して、人の意見尊重や目線を変えの考え方も大変参考になり、業務内でも多少ながら利用しています。

社会構造として、個人主義や社会常識を逸脱した発言及び行動等で、地域コミュニティの崩壊、会社組織内での弱体化で疲弊した状況が発生しています。

この状況下での、ファシリテーションの持つ魅力である対話力は、交流と相互理解を図れる最大の産物だと思っています。習得したことを会社組織の改善に活用するつもりです。(作本博之)

会議などの場面で、活発な意見が出る時、上手くまとめられた時、まずい展開になる時など様々な経験をしてきました。この講座でその時々に必要なテクニックがあり、準備と技術でその場の空気を変えることができ、良い結果に繋げることがでることを学びました。技術の習得はとても難しいと実感していますが、失敗を恐れず経験を重ねたいと思います。(金原久美子)

今回、ファシリテーター養成講座に参加をして、会議の進め方や意見のまとめ方など様々な方法を学びました。

仕事の中で会議をすることがあるので、学んだことを活用していきたいと思います。(島崎愛良)

この講座では、会議の場でゴールを明確にして、それに向かうプロセスを定めたり、参加者の発言を引き出したり、適切にまとめていく技術を学びました。

ファシリテーター、そして「まちづくりリーダー」への道は容易ではありませんが、今後、自分の関わる会議や話し合いが少しでも好ましい方向に進んでいくよう、常にこの講座の内容を意識しながら臨んでいきたいと考えています。(山本光丞)

まずは自分が走り出して、周りを巻き込む。そのためには、何が必要か。自分は、どう動くべきなのか。そんなことを考え続けた一年間でした。

当初は伝習所の塾活動に役立つのでは？と思って参加したのですが、学んだスキルを応用できるのは人が集まるすべての場所。アイデアが生まれる場づくりをしていきたいと考えています。(小川美穂)

今回受講して、最も勉強になったのは、「参加者の納得感」に寄り添う考え方です。

私は、外国人青年と日本人青年の国際交流を推進するためのグループに所属しており、そこで会議を仕切ることがあります。

今後は、その会議で、今回の学びを生かし、より全員が納得できるような結論を皆で出すことが出来るようにファシリテートしていきたいと思います。(山田あゆみ)

ファシリテーションというとなんだか難しそうに感じる方もいらっしゃるでしょうが、実はあらゆる人間関係(コミュニケーション)に効く考え方&手法だと思います。なので場所や機会を限定せずに、学んだ一部でも活かし

ていきたいと思っています。(浦川公伸)

## ファシリテーター養成講座活動記録

日 時	場 所	内 容
<b>平成 27 年</b>		
6月7日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第1回 場のデザインのスキル~会議の段取り術 ・まちづくりとファシリテーション、チーム(場)づくりのポイント、会議のアジェンダ作りのコツ
7月5日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第2回 対人関係のスキル~意見の引き出し術(1) ・意見を引き出し受け止める、感情や場の動きを観る、柔らかく意見を伝える
8月2日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第3回 対人関係のスキル~意見の引き出し術(2) ・参加者が持つ資源を引き出す、効果的なブレインストーミング、アイデアを引き出す各種技法
9月6日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第4回 構造化のスキル~議論の整理術(1) ・主張を明確にする、意見の道筋を整理する、議論を整理する技法
10月10日(土) 13:30~16:30	長崎県立図書館 多目的ホール	50人ワークショップ テーマ:「みんなで語り合おう。長崎伝習所の『未来』。」 参加者 41人
11月8日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第5回 構造化のスキル~議論の整理術(2) ・議論を描いて整理する、図解を活用して整理する、フレームワークを活用する
12月6日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第6回 合意形成のスキル~会議のまとめ術(1) ・意志決定手法を学ぶ、対決解消の基本ステップ、柔軟に対立解消の案を考える
<b>平成 28 年</b>		
1月31日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第7回 合意形成のスキル~会議のまとめ術(2) ・対立が創造を生み出す、困難な対立に立ち向かう、問題児への対処法
3月6日(日) 9:30~16:00	長崎市社会福祉会館 4階	第8回 総合演習/クロージング~実践に向けて ・最新の対話技法を学ぶ、臨機応変に場に対応する、経験を学習につなげる
3月21日 (月・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり ・パネルの展示

## ファシリテーター養成講座

講師	堀 公俊				
1	飯山 由佳	21	宮本 友和		
2	浦川 公伸	22	毛利 真紀		
3	卜部 淳史	23	本澤 知子		
4	大西 博子	24	諸谷 心み		
5	小川 さやか	25	山口 由里子		
6	小川 実咲	26	山田 あゆみ		
7	小川 美穂	27	山本 光丞		
8	金原 久美子				
9	作本 博之				
10	篠崎 桂子				
11	篠崎 義行				
12	島崎 愛良				
13	白浜 理恵				
14	田川 大介				
15	田中 信				
16	西村 直美				
17	藤田 聡美				
18	藤田 幸代				
19	藤浪 ひかる				
20	前田 裕子				

## まちコツアカデミー

「まちコツアカデミー」は、さまざまな分野で活躍する達人や、まちづくり先進地のリーダーを招いて、お話を聞き、情報交換を行うことによって、「まちづくりのコツ」をみんなまで学ぼうというものです。

また、講演だけではなく、実際に講師の方が活躍する場所を訪ね、更なる理解を図ることや、地元の人々とのふれあいやネットワークを作っていくことを目的としています。

今年度は、津屋崎ブランチ LLP の代表の山口覚さんを招き、「まちの記憶を継いでいく～津屋崎のまちづくり～」というテーマで講演会を開催し、福岡県福津市津屋崎地区で行なっている活動の紹介や山口さんのまちづくりの哲学などをお聞きしました。

### まちコツアカデミー ～講演会編～

日 時：平成 27 年 6 月 14 日(日)

14:00～16:30

講 師：山口覚さん

(津屋崎ブランチ LLP 代表)

テーマ：「まちの記憶を継いでいく  
～津屋崎のまちづくり～」

会 場：メルカつきまち 5 階ホール

参加者：80 人



(講師の山口覚さん)



(講演会の様子)



(講演会の様子)



(講師の話で心に残ったことなど)

## まちコツアカデミー ～現地視察編～

日時:平成27年9月12日(土)～13日(日)

参加者:18人

行程等:

9月12日(土)

9:00	長崎出発
11:30	津屋崎到着 概要説明
13:30	津屋崎まち歩き、ワークショップ*
19:00	まさご(交流会)

9月13日(日)

9:00	旧河野邸にてワークショップ
14:00	津屋崎出発
16:30	長崎到着

参加者報告:

津屋崎を訪れるのは、昨年に続いて2度目でした。前回の視察ではとにかく新しい発見の連続で、ゆっくりと考える時間がなかったので、今回の研修では「ゆっくりと考えながら、新たな発見をする」という個人的なテーマを持って参加しました。

津屋崎では、(良い意味で)相変わらず独特の時間が流れており、その中に津屋崎ランチが溶け込んでいる感覚があります。その理由を探してみると、代表の山口さんがおっしゃっていた「まちおこしの基本的な考え方は、こちらから様々なモノを提供するのではなく、その土地のニーズを探り、解決の手伝いをすること」ということに答えの鍵がある気がしました。自分自身も、NPO活動で地域の方と接することが多くありますが、気づかないうちに自分達の考えを押し付けてしまっている部分がありました。そうではなく、地域のニーズに寄り添うことが、そこで必要とされることに繋がるのだと強く感じました。

(竹中克月)

今回の視察は多くのまちづくりのヒントを与えてくれ、自分たちが住む「長崎」のまちづくりへの意欲を大いに喚起してくれました。

まず、「便利」とはなにか、ただ「便利さ」を追求するまちでよいのかという問題提起を投げかけていただき、「便利」が「依存」であって「不便」が「自立」につながっていくことを再確認できました。そして、その「不便」なまちの小さな会議室は「未来会議室」と名付けられており、その会議室に「未来を語る」「人を褒める」「断定しない」の三ヶ条があった。今後ともに、まちづくりの話合いをするときに肝に銘じ続けたい言葉です。

次に、「そのまちで何が本物かを見極め、その本物を掘り出し、磨いていく。」というまちづくりの基本を再認識させていただきました。長崎のまちは、津屋崎と比較して多くの歴史的資産にあふれているけど、その一つ一つと本気で向き合い、市民目線でその磨き上げに関わっていたのかという反省を猛烈に感じました。そして、長崎のまちづくりに貢献できることに、小さなことからでもすぐに取り組んでいきたいと考え始めた時に、今回の視察参加者の中から「空き家を利用したことも向けの学びの場」の話が出て、「長崎こども社中」構想が生まれました。その上で、実際にその具体的な話し合いが長崎に戻ってからすぐに始められ、具体的な実現に向けて大きく動き出したことは、今回視察の大きな成果だと思います。(佐藤秀人)

私は「一期一会」の縁を大事にしています。それは、人との出会いだけでなく、物事の出会いも一緒だと思っています。今回、一緒に行った方、出会った方、町づくりに対する取り組み等、新しい出会いと発見が数多くありました。特に山口さんの発想力、行動力、哲学に感動しました。

私は一般市民ですが、自分の価値観をしっかり持って、私もできることから始めたいと強く思いました。また、行政の方がこのような取り組みをしていることを知る機会があったのでよかったです。もっと多くの方に知ってもらいたいと思ったので、私も周りの人に話すことから始めたいと思います。

話す相手が何に興味があるのか→興味があることで町づくりに活かせないか→行政の取り組み→企画・実行となれば、楽しく、個人でもできる事から始められると思いました。こういった行政の取り組みを、市民にももっと知ってもらう方法があればと思いました。

これから新しい事が始まろうとしているので、想像すると楽しみです。自分達のやりたいことが伝わるよう、思いを持って取り組んでいきたいと思えます。

今回の視察研修に参加させていただいたのがきっかけとなりました。ありがとうございました。(大西博子)

「まちコツアカデミー」を通し、まちおこしは哲学をもってやることが重要だと強く感じました。「人口減少は本当に問題？」など、誰もが「気に掛けてみると確かに疑問」という点を押さえてやるから共感が得られる。

地域運営でも、旧態依然の運営者側とメリット論の住民側との意識のずれが問題になるが、一度「自治会って必要？」というところ

から、筋書無しで、どんな意見も尊重する覚悟で考えてみると、多くの方が納得する答えが生まれるのではないかと思います。

(橋田修平)

今回福岡の津屋崎を訪れてまず初めに感じたのは、静かな町だなという印象でした。

町おこしといえば、町に活気を取り戻そう！というような活動を思い浮かべるもので、その点、津屋崎では外を歩く人も少なく活気のある町とは言い難いと思います。

しかし、静かな町並みの中にも人の温かみを感じられ、住んでいる人たちが町を誇りに思う気持ちが伝わってきました。

実際に移住者も増えていて、地域に適した町おこしの成功例といえると思います。

講師として津屋崎を案内してくださった山口さんは「発明」という概念の元に、今までの常識の枠を超えた新しい発想で町おこしを実践していて、非常にわかりやすい説明と共に我々の気づきを促す話の巧みさに、ただただ尊敬するばかりです。

参加者の皆様といろいろな角度から町おこしについてのお話をする事ができて、この時期に今後の活動の軸となるものが再確認できて非常に有意義な時間となりました。

補助金ではなく寄付を募るお金の集め方や今あるものの生かし方など、研修から学んだ知識を基礎において高島でも通用しうる発明を目指し、高島を幸せの溢れる島にしていけるように頑張りたい、という気持ちになりました。

まちコツアカデミーに関わった皆様、本当にありがとうございました。(高橋 哲夫)

山口氏の講演で紹介された津屋崎のまちづくりについて、実際に空気感を体験できると非常に期待して参加しました。

玉の井でのワークショップや旧河野邸での自由会議など自分を振り返り、仕事を振り返る機会になりました。山口氏の考え方は哲学的で人の心を揺さぶる、心情に訴えるものがありますが、システムや枠組みを構築するという自分の業務とどう組み合わせたいかを考えていかないといけないと感じました。

(前田裕子)

「眠っている本物を掘り起こす。そして、本物に人は集まる」「平凡な月曜の質を上げる」「交流は日常の交換」などなどここには書ききれないくらいの数々のキーワード。市の職員としてまちづくりのお手伝いをするとき、あるいは住民として地域活動を行うときに、これらのこと意識するようになりました。

地域には、その地域特有の資源がある。そして人もいる。ないものはないのだから、ないものねだりをするより、あるもの磨きをしっかりやるのが大切。単に感動で終わらせるのではなく、少しずつでも、着実に行動に移し、まちづくりファシリテーターとしての役割を担っていけるように、これからも頑張っていこうと改めて決心することができた有意義な2日間でした。

(中村雅博)

初めての津屋崎は、風情ある建物が立ち並び、映画のロケ地になるような街並みでパワースポットのような雰囲気がありました。ゆっくりとした津屋崎ならではの空気感の中では頭がスッキリとして、「ここにいたら何かができそう！」と思える時間を過ごしました。

私たちの頭の中には日頃から余計な考えがたくさん詰まっていて、それに捉われずに物事を考えていけるような津屋崎で感じた新鮮な感覚をこれからも持ち続けていきたいです。

(ト部淳史)

津屋崎を実際に訪れ、いかに人を引き付け、いかに住民を元気にしていくかの取り組みを勉強させてもらう中で、時間に逆らわず、できることから少しずつ取り組んでいく無理の無い自然さがとても印象に残りました。

山口さんから色々な「言葉」「キーワード」をいただきながらの街並みや住民の皆さんの佇まいが不思議と心地よく、危機感に溢れたまちづくり論ではなく、運命を受け入れる覚悟の上のまちづくりのあり方はとても鮮烈でした。

(林田昌己)